

策定年月	令和7年4月
見直し年月	

麦国産化プラン

産地名：熊本県・山鹿市

（作成主体：山鹿市農業再生協議会）

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

<現状と課題>

令和6年産の実績

耕作者	作付面積 (㎡)	生産量 (kg)	品種
法人F	250,862	64,282	二条大麦
農業者G	110,913	28,093	二条大麦
農業者H	56,308	14,462	二条大麦
農業者I	73,755	6,523	小麦



令和10年産の計画

耕作者	作付面積 (㎡)	生産量 (kg)	品種
法人F	250,862	77,541	二条大麦
農業者G	110,913	34,283	二条大麦
農業者H	56,308	17,404	二条大麦
農業者I	73,755	20,739	小麦

◎令和6年産の二条大麦と小麦は地域の基準単収と比較し減収となった。
(地域単収は大麦281kg/10a、小麦271kg/10aに対し255.46kg/10aと88.44kgであった。)

◎今後は高齢化等の農業者の後継者不足や地球温暖化の影響で暖冬や早めの梅雨期到来により、面積・生産量の減少、さらに管理不足による品質や収量の低下が懸念される。

<取組方針>

スマート農業用機械を導入して農作業の省力化を図り、効率的な農業経営を行うことで、面積・生産量を維持するとともに、管理不足による品質や収量の低下を防ぐ。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

実需者との連携方針

実施主体	現状		目標	
	生産量 (kg)	契約数量 (kg)	生産量 (kg)	契約数量 (kg)
法人A	64,282	64,282	77,541	77,541
農業者B	28,093	28,093	34,283	28,093
農業者C	14,462	14,462	17,404	17,404
農業者D	6,523	6,523	20,739	20,739

JA熊本
経済連

麦加工業者等

- 1 高齢化等の農業者の後継者不足によって、面積を維持することが困難な状況の中でも、麦は実需者が多く今後も需要量は高く見込みがある。実需者から求められている契約数量に対して応えるため、前述の取組方針により生産に取り組む。
- 2 新たな品種については実需者と協議を図り、圃場に適した営農体系を確立する。
- 3 農業者別で単収を比較した場合大きく格差があるため関係機関と連携して単収の向上に努める

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

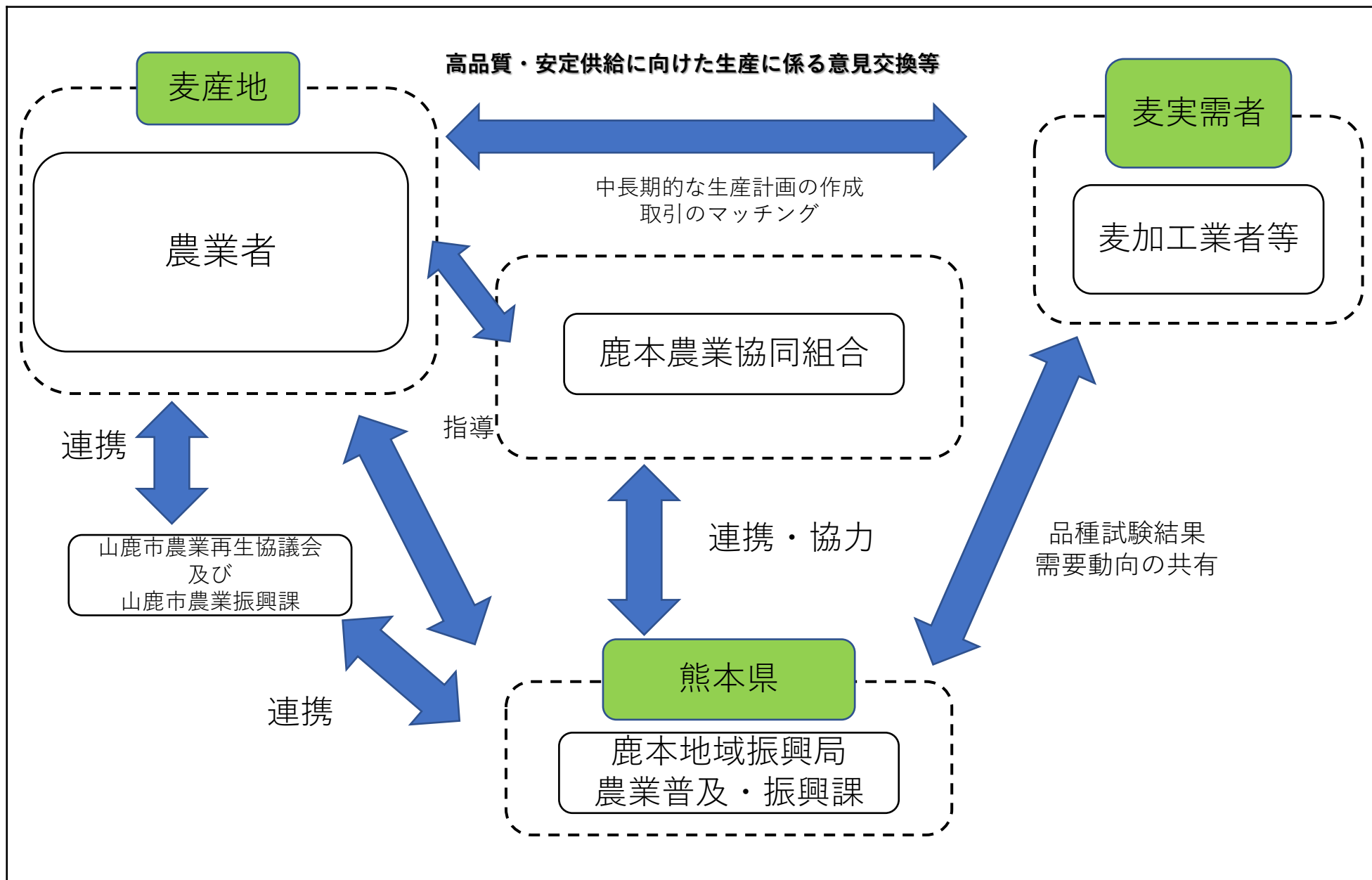
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。